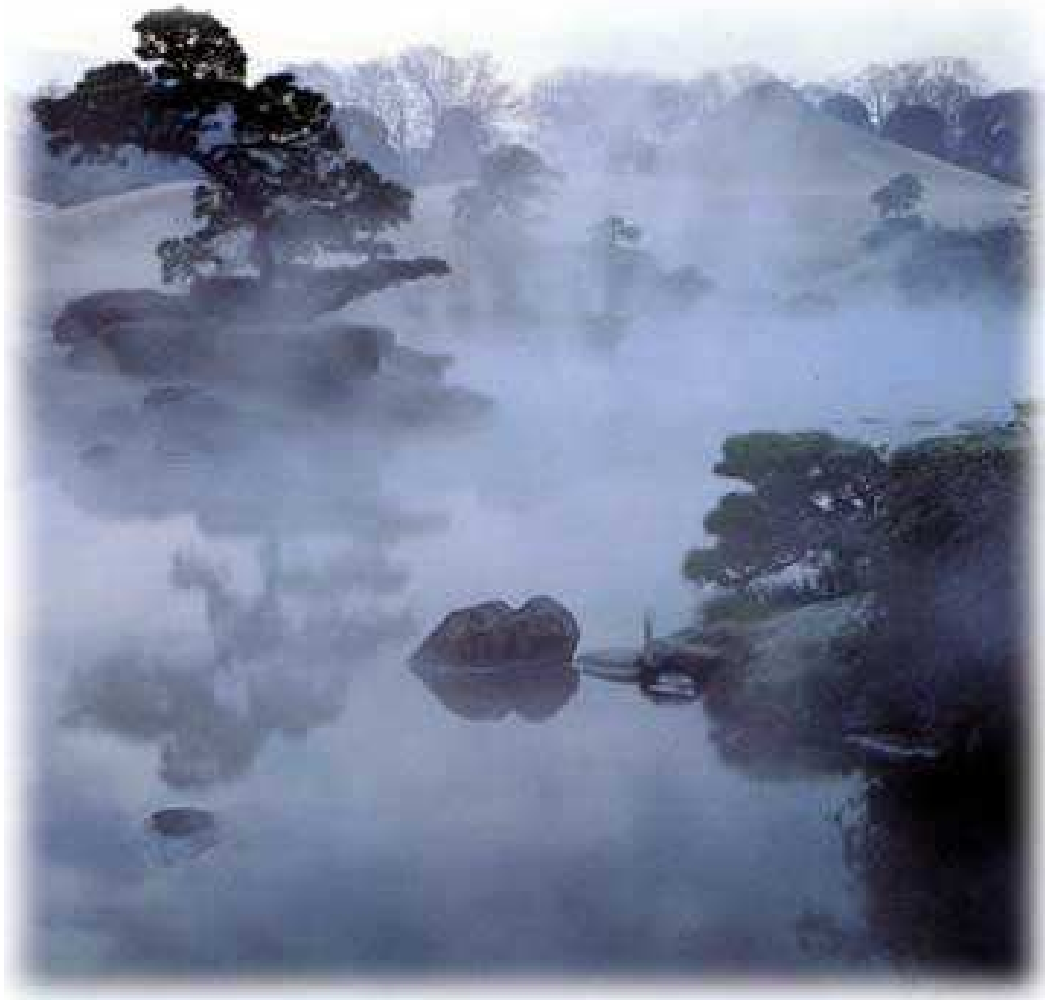


漱石が詠んだ水前寺

3代細川忠利が、寛永13年(1636)に古市宗庵に命じて造らせた「国分の御茶屋」が水前寺成趣園のはじまりです。忠利は、耶馬溪羅漢寺からやってきた玄宅を住まわせ、水前寺の号をあたえました。そのため、このお茶屋は「水前寺の御茶屋」と呼ばれるようになったとそうです。その後、寺は廃寺となりましたが、5代綱利のときに、現在の大規模な桃山式回遊庭園が造られ、成趣園と名づけられました。しかし、水前寺の称号はそのまま伝えられ、今日でもその名で呼ばれることが多いようです。

しめ縄や 春の水湧く 水前寺



古今伝授の間は、慶長5年、御陽成天皇の弟、桂宮智仁親王が、細川幽斎から古今集の秘伝を授けられた場所です。桂宮家から明治4年に細川家に贈られ、細川家では解体保存していましたが大正元年に、現在地に移築復元されました。

湧くからに 流るゝからに 春の水

